

| I 教育目標 | |
|--------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ○ 明るく素直で思いやりのある人 ○ まじめに努力し物事をやりとげる人 ○ 正しい知識と判断力をもって行動する人 ○ たえず創意と工夫につとめる人 |

| II 経営方針 | |
|---------|--|
| 目指す学校像 | <p>教育推進プラン江東（第3期）及び「江東区こどもの権利に関する条例」に基づき、特に（4）の「人権を尊重する心の育成」、（5）の「かけがえのない自他を大切にすることの育成」を全ての教育活動の原点として取り入れていく。</p> <p>公立中学校の使命や役割を自覚し、「地域にある地域の学校」の特色を活かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての生徒のウェルビーイングと居場所のある学校づくり ・明日が待たれる学校で、充実した学びを提供し信頼される学校 ・知徳体バランスのとれた生徒の育成できる学校 ・安心、安全、安定が保障された学校 ・家庭と密な連携の推進 |
| 目指す生徒像 | <ul style="list-style-type: none"> ・六中のよき伝統である明るい挨拶のできる生徒 ・互いに学び合い協働学習を展開し、主体的に学習し確かな学力の向上に努める生徒 ・自己理解・他者理解を通し思いやりの精神といじめや暴力を絶対に認めない生徒 ・体力と増進と心の健康、レジリエンスに努める生徒 ・正しい考えをもとに、正しく行動できる生徒 ・学校行事や学年行事に主体的に取り組む生徒 |
| 目指す教師像 | <ul style="list-style-type: none"> ・教師である誇りを自覚し、自分の仕事には最後まで責任をもち、教員間で連携でき、互いに尊重し信頼し合う教師集団・・コミュニケーションを大切に ・校内研修を充実させ、OJTにおいて若手教員の育成し、中堅・ベテランのリーダーシップが図れた教師集団 ・研修と教養に励み、課題を見つけ、その解決に向けて取り組む教師 ・教科指導・学級経営のスキルアップに努め、プラスアルファの学校運営の参画 ・生徒を認めて褒める教師・・生徒の自尊感情、自己有用感の醸成 ・ICT機器の活用し、授業改善に努める ・生徒対応で「もうひと手間」かけることでより良い結果に結びつける ・よき教師、よき社会人・・組織内での報告・連絡・相談 ・保護者と連携を大切にし、外部機関との折衝を図れる教師 |
| 経営理念 | <p>本校は「地域にある地域の学校」として発展してきた。すべての生徒に「生きる力」を育むことはもちろんだが、深川の地域を愛し、さらに発展させていくためのコミュニティーの中心となることが本校の使命であると考えている。</p> <p>地域の方々、卒業生、保護者らとの連携を密にしながら、「目の前の生徒たちに何ができるか」を教職員が一つになって考え、二度とない中学校生活が将来の自分への架け橋となるよう、日々の教育活動を充実させていく。</p> <p>本校の生徒がやがては地域を支える一員となること、そしてその一方でグローバルに活躍できる自立・自律した人間となることで社会をつくりあげていく人材の育成を目指して教育活動を進める。</p> |

| III 経営目標 | |
|----------|-----------------------|
| 重点領域1 | 生徒のウェルビーイングを目指した学校づくり |

| | | |
|--------|---|---|
| 中期経営目標 | 「安全・安定かつ安心で、すべての生徒にとって居場所があり、成長できる学校 | |
| 短期経営目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が授業内容をよく理解でき、楽しく学べる ・行事など特別活動や部活動の充実 ・多様な個性に対する理解の促進 ・教育相談の充実 | |
| 項目 | 努力指標（教師側） | 成果指標（こども側） |
| 1 | 授業はレクチャーのみでなく、生徒に ICT 機器を積極的に活用させたりワークシートに適切に取り組みせたり、発表形式を取り入れるなど、活動的な授業を展開でき、生徒が主体的に学習に取り組むよう指導方法の工夫・改善を図っている教員の割合を 90%以上にする。 | 学校アンケートで、授業内容が「理解でき楽しい」、「ワークシートに工夫があったり ICT 機器を使う場面があったりしてわかりやすい」と思う生徒の割合をどの教科もそれぞれ 80%以上にする。 |
| 2 | 特別活動や部活動等を充実させ、どの生徒にも居場所があり、活躍できる機会が多く、学校生活の中で自己有用感を高める指導を行っている教員の割合を 80%以上にする。 | 生徒アンケートで「私は楽しみにしている行事がある」「部活動は楽しいと感じるときが多い」の割合を 80%以上にする。 |
| 3 | 教職員自らが日頃の教育活動の中でどの生徒に対しても平等に接し、人権を尊重した言動に努めている教員の割合を 80%以上にする。 | 生徒アンケートの「人にはさまざまな個性があり、それぞれが尊重されなければならないことがわかっている」と思う生徒の割合を 90%以上にする。 |
| 4 | 三者面談以外にも教師が積極的にコミュニケーションを取り、教育相談を柱とした生活指導を行い、いじめや不登校の未然防止、早期発見・解決を図っている教員の割合を 90%以上にする。 | 生徒アンケートで「学校の先生は私たちの相談にいつも親身になってしっかりと対応してくれる」と思う生徒の割合を 90%以上にする。 |

| | | |
|---------------|--|--|
| 重点領域 2 | | 学力の向上を図る |
| 中期経営目標 | 主体的に学習をし、ねばり強く学習に取り組んでいくことができる生徒の育成 | |
| 短期経営目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に学ぶための指導方法の工夫・改善 ・生徒の読解力や表現力などを育成するための言語活動の充実 ・生徒が主体的に取り組む家庭学習の推進 | |
| 項目 | 努力指標（教師側） | 成果指標（こども側） |
| 1 | 授業のなかで活動を取り入れるなど、主体的に授業に取り組ませるための工夫をしている教員の割合を 80%以上にする。 | 学校アンケートで、授業に自ら進んで取り組んでいると思う生徒の割合をどの教科も 80%以上にする。 |
| 2 | 読書活動の推進、新聞記事の活用など生徒の読解力向上に関わる取組みを行っている教員の割合を 50%以上にする。 | 本を月に 1 冊以上読んでいる生徒の割合が全学年平均で 50%以上になることを目指す。 |
| 3 | 生徒が自ら計画を立て、生徒が自ら取り組むために家庭学習への工夫を行っている教員の割合を 50%以上にする。 | 学校評価で、自ら進んでほぼ毎日家庭学習に取り組んでいる生徒の割合をすべての学年で 70%以上にする。 |

| | | |
|---------------|--|-------------|
| 重点領域 3 | | 豊かな心の育成していく |
| 中期経営目標 | 人やものを大切にする思いやりの気持ちを大切にし、正しい判断ができる生徒の育成 | |
| 短期経営目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が道徳的な判断力、態度、実践意欲を高めるために、道徳の授業を充実させる。 ・あらゆる場面で正しい判断ができ、適切な行動ができる ・地域の方をゲストティーチャーとして活用したり、生徒のボランティア活動を推進するなど地域の教育力を生かした取組の活性化 | |
| 項目 | 努力指標（教師側） | 成果指標（こども側） |

| | | |
|---|--|---|
| 1 | 道徳教育を推進するとともに、学年等で組織的に道徳授業を参観したり自ら研究したりするなど道徳授業の工夫・改善を図っている教員の割合を80%以上にする。 | 生徒アンケートで「道徳の授業は自分の生き方や考え方に役に立っている」と思う生徒の割合を70%以上にする。 |
| 2 | SNSルールや防災教育などにおいて、生徒の中に浸透したと思う教員の割合を70%以上にする。 | ルールに従った行動や急な場面でも臨機応変な対応ができる生徒の割合を70%以上にする。 |
| 3 | 地域人材と関わり、生徒のボランティア活動を推進させ、地域の教育力の活用の一役を担えたと思う教員の割合を50%以上にする。 | 生徒アンケートで学校と地域が関わる行事や地域だけの行事に積極的に参加している生徒の割合を50%以上にする。 |

| | | |
|--------------|---|---|
| 重点領域4 | | 特別支援教育の充実させる |
| 中期経営目標 | 普通教室の中での特別支援教育の推進させるため、生徒が様々な個性の生徒を受け入れ協働の学習を進めていく。 | |
| 短期経営目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・巡回教員などと組織的対応（巡回型特別支援教室の拠点校としての利点を生かして） ・あらゆる個性の生徒に対応するため、教室の環境を整備するなどユニバーサルデザイン化やインクルーシブ教育を推進させる。 | |
| 項目 | 努力指標（教師側） | 成果指標（こども側） |
| 1 | 特別支援教育の巡回教員等と組織的な対応により、密な連携を図ることで、支援を必要とする生徒の指導を行っている教員の割合を50%以上にする。 | 生徒アンケートで「学校の先生はさまざまな生徒がいる中で、いつもクラス全員、学年・学校全員の生徒のことを考えてくれている」と思う生徒の割合を各学年70%以上にする。 |
| 2 | どの生徒にも対応できるように、学習環境や教室環境のユニバーサルデザイン化やインクルーシブ教育の充実に積極的取り組んでいる教員の割合を50%以上にする。 | 生徒アンケートで「学校の先生はさまざまな生徒がいる中で、教室環境の整備や授業がわかるように工夫している」と思う生徒の割合を各学年70%以上にする。 |